

旅する映画監督 Vincent Moon

即興的な身体のかつかり合いを模索してきた contact Gonzo

映像人類学者の川瀬慈率いる Anthro-film Laboratory

映像表現の新しいあり方を模索する、実験プロジェクト

美術表現が多様化する現在、広い視野と知識を以てその文脈を深く理解することは非常に重要になってきています。90年代以降、フィールドワークなど人類学的手法を活用したポストコロニアル理論など、文化の差異や他者などをキーワードに意味作用を問う作品が多く見られるようになりました。その次なる展開として、幅広い学問領域の知と技術を活用し、言語的な理解だけでなく、深部の感覚や感性の作用の差異を扱う表現が注目されつつあります。

本展では、「感覚民族誌」的観点から見ても優れたアプローチを取る映画監督、ヴィンセント・ムーンならびに即興的な身体のかつかり合いから始まるパフォーマンス・映像・写真など発表形態を固定しない活動で国内外から高い評価を得る contact Gonzo、そして映像人類学者の川瀬慈（国立民族学博物館准教授）率いる研究会「Anthro-film Laboratory」による公開型のセミナーや実験を行います。

映画、アート、文化人類学、そしてさまざまな領域に携わる人々が京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA に集うこの試みは、従来の学問それぞれのアーキテクチャー自体の拡張、発展へとつながる極めて重要な実践となるでしょう。

タイトル：im/pulse: 脈動する映像

会期：2018年6月2日（土）-7月8日（日）11:00-19:00（月曜休館）

企画：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

主催：京都市立芸術大学

助成：公益財団法人 野村財団、公益財団法人 吉野石膏美術振興財団

協力：京都芸術センター、空間現代、『響・HIBIKI』製作委員会、樋口造園株式会社、ワタリウム美術館



ヴィンセント・ムーン & プリシラ・テルモン「HÍBRIDOS: The Spirit of Brazil」プロジェクトより 2014年-2017年

■ ABOUT THE ARTISTS

Vincent Moon (ヴィンセント・ムーン)

1979年フランス、パリ生まれ。パリ出身のインディペンデントフィルムメーカーであるヴィンセント・ムーンは、フランス発の音楽情報サイト「La Blogothèque」のためにシネマ・ヴェリテの手法(作り手の存在が映画から排除される虚構上のトリックを排し、映像の作り手が被写体の人々と関わる行為そのものをも記録し、映画をより真実に近づけようとする手法)によって制作された作品の数々でその名を知られるようになる。2009年からは遊牧民のごとくカメラひとつで世界を旅し、現地の伝統音楽から宗教的な儀式、新しい実験音楽までを幅広く探求し映像を制作。これらの旅の記録映像は、彼の生涯をかけたノマディック・フィルムメイキングプロジェクトとしてウェブ上で公開され、また世界各地でフィールド録音された音源は、自身のレーベルである Collection Petites Planètes より配信されている。現在、2019年の実施を目指し、日本における魂を震わせる表現を記録する旅、HIBIKI プロジェクトの準備を進めている。www.vincentmoon.com

Priscilla Telmon (プリシラ・テルモン)

ディレクター、写真家、作家。1999年からフレンチエクスプローラーソサイエティのメンバーとなり、訪れる地域で継承されて来た知恵と神秘を敬いながら、長期の冒険旅行を行なってきた。遊牧民、聖なる儀式やシャーマニズムといった分野を得意とし、古代文化から得た学びを映画、ルポタージュ、書籍といった媒体を通して、国際報道機関、テレビ局、美術館で発表している。www.priscillatelmon.com



ヴィンセント・ムーン & プリシラ・テルモン 「HíBRIDOS: The Spirit of Brazil」プロジェクトより
2014年-2017年



ヴィンセント・ムーン & プリシラ・テルモン 「HíBRIDOS: The Spirit of Brazil」プロジェクトより
2014年-2017年

ABOUT THE ARTISTS

contact Gonzo (コンタクト・ゴンゾ)

2006年に塚原悠也と垣尾優により結成されたパフォーマンス集団。「contact Gonzo」とは、70年代のゴンゾ・ジャーナリズムに由来し、グループの名称であると同時に、身体を「接触」させる独自の的方法論の名称でもある。街中や公演で即興的なパフォーマンスを繰り返しつつ、映像や写真作品を制作。結成当初からパフォーマンスの記録映像をYouTubeにアップするなど、メディアを活用した活動を展開。また、07年「吉原治良賞記念アートプロジェクト」に参加以降、現代美術の分野でも注目され、多くの国際展や芸術祭などに参加している。13年にはニューヨーク近代美術館 (MoMA) にてパフォーマンスを発表した。現メンバーはNAZE、松見拓也、三ヶ尻敬悟、塚原悠也の4人。パフォーマンス、インスタレーション、マガジンの発行など多岐にわたる活動を展開している。セゾン・フェローとして2011-2015年度の間、採択。

contactgonzo.blogspot.jp



ニューヨーク近代美術館 (MoMA) 「Performing Histories: Live Artworks Examining the Past」展のためのパフォーマンス
2013年
Photo by Choy Kafai



ホンマタカシ x contact Gonzo 『鹿を殺すと残る雪』2018年 撮影：井上嘉和



《shelters》2008年撮影 / 2015年再編集 2013年 Photo by Choy Kafai



contact Gonzo 展示風景 2011年
『風穴 もうひとつのコンセプチュアリズム、アジアから』展より 撮影：福永一夫

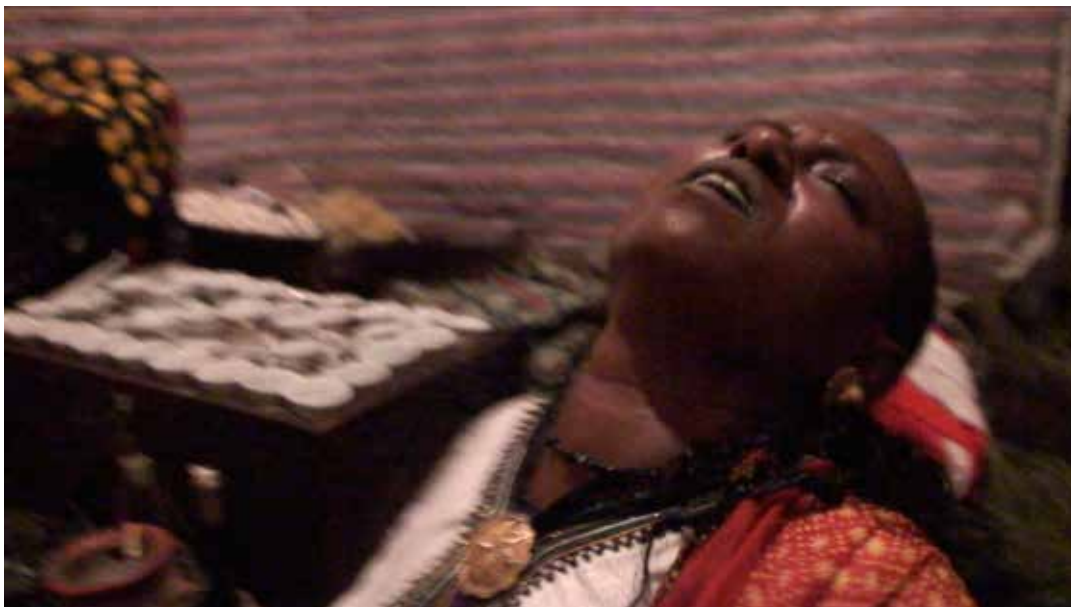
ABOUT THE ARTISTS

Anthro-film Laboratory (アンスロ・フィルム・ラボラトリー)

映像人類学を起点とする Anthro-film Laboratory は、文化人類学、映像、アートが交叉する実践のなかで、言語に依拠するだけでは伝達されえない知や経験の領域を探求し、人文学における新たな知の創造と語り / 体験の新地平を切り開くことを目指してきた。文字に依拠した成果を前提とする人類学は、調査する者の身体を「書く者」として規定し、その経験や知の在りようを「書く」「読む」枠組みの中に限定してきたといえる。そうした認識と手法に対して問題提起をしてきたのが映像人類学である。Anthro-film Laboratory は、調査者と受け手の双方の身体を、記号を解する存在である以上に感覚的な存在であると考えている。両者を媒介するものを筆記具だけでなく、カメラ、レコーダー、携帯電話などの技術、或いは調査者の肉体と音声にまで拡張することで、従来の枠組みに縛られない地平を切り開こうとしてきた。視覚のみならず、触感や聴覚に働きかける知を、イメージやサウンド、詩など、多岐にわたる手段で表現していくことが企図されている。

運営委員：川瀬慈、ふくだべろ、村津蘭、矢野原佑史ほか

www.itsushikawase.com/anthro-film_lab



川瀬慈
2012年
『精霊の馬 / When Spirits Ride
Their Horses』
エチオピア、ゴンダールの霊媒マレ
ムのポートレート
© Itsushi Kawase



© fukudapero

■ **関連イベント** ※特筆なければ全て申込不要・参加無料

※会場表記のないものは全て京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA にて実施

■ **パフォーマンス&オープニングレセプション**

日時：2018年6月2日（土）14:00-19:00

14:00- パフォーマンス

ヴィンセント・ムーン&プリシラ・テルモン | SACRED+S – A Music + Cinema Ritual

contact Gonzo | パフォーマンス

前林明次、川瀬慈 | サウンド・朗読パフォーマンス

16:00- オープニングレセプション

■ **ヴィンセント・ムーン レクチャー & バシエ音響彫刻とのパフォーマンス**

日時：2018年6月15日（金）17:00-19:00

会場：京都市立芸術大学 学生会館

17:00- レクチャー

18:00- SACRED+S – A Music + Cinema Ritual

出演：ヴィンセント・ムーン&プリシラ・テルモン、

Ensemble Sonora（沢田穰治+渡辺亮+岡田加津子（京都市立芸術大学音楽学部准教授））、北村千絵（Voice）

■ **[Anthro-film Laboratory] ロセツラ・ラガッツィ映像作品『受け継ぐ人々』上映会**

日時：2018年6月7日（木）19:00-21:00

ゲスト：ロセツラ・ラガッツィ（映像人類学者/トロムソ大学博物館准教授）

上映作品：『Fire Keepers（受け継ぐ人々）』2007年、57分、サーミ語・ノルウェー語・英語（日本語字幕付き）

■ **[Anthro-film Laboratory] ワークショップ「ヴィジュアル・ストーリーテリングとダミーブック」**

日時：2018年6月10日（日）11:00-19:00

講師：岡本裕志（Visual Storyteller / 写真家 / 映像ディレクター）

定員：5名（要事前申込・材料費有料 / @KCUA ウェブサイト参照）

■ **[Anthro-film Laboratory] マーティン・グルーパー映像作品『イスラームと聖なる森の間で』上映会**

日時：2018年6月14日（木）19:00-21:00

ゲスト：マーティン・グルーパー（映像人類学者/ブレーメン大学講師）

上映作品：マーティン・グルーパー、フランク・ザイデル 監督『Between Islam and the Sacred Forest（イスラームと聖なる森の間で）』2016年、52分、ナル語（英語字幕付き）

■ **[Anthro-film Laboratory] 韓国打楽器のリズムを用いた実験的パフォーマンス**

日時：2018年6月16日（土）15:00-17:00

出演：神野知恵（民族音楽・民俗芸能研究者/国立民族学博物館機関研究員）、チェ・ジェチョル（韓国太鼓奏者）

■ **[Anthro-film Laboratory] ジョン・タムラ映像作品『石川を掘る』上映会**

日時：2018年6月20日（水）19:00-21:00

ゲスト：ジョン・タムラ（ミュンスター大学映像人類学修士課程在籍）

上映作品：『Shoveling Ishikawa（石川を掘る）』

2018年、52分、日本語（英語字幕付き）、英語（日本語字幕付き）

■ [Anthro-film Laboratory] サウンドレクチャー「漂流する音と身体」

日時：2018年6月30日（土）14:00-16:00

講師：柳沢英輔（音文化研究／フィールド録音作家／同志社大学文化情報学部助教）

聞き手：大田高充（インスタレーション／サウンドパフォーマンス）、

ふくだべろ／福田浩久（詩・メディア人類学／立命館大学先端総合学術研究科博士課程）

■ [Anthro-film Laboratory] 映像人類学レクチャー & ワークショップ「映像で物語ること」

（拡張された場におけるアートマネジメント人材育成事業「状況のアーキテクチャー」テーマ3《社会》「記憶の演出」×「記録」）

日時：2018年7月2日（月）-4日（水）14:00-17:00（全日参加がのぞましい）

講師：川瀬慈

定員：20名（要事前申込／@KCUA ウェブサイト参照）

助成：平成30年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」

■ [Anthro-film Laboratory] ふくだべろ／福田浩久、村津蘭上映会「革新と継承を超えた映像人類学の未来」

日時：2018年7月4日（水）19:00-21:00

登壇：ふくだべろ／福田浩久、村津蘭（アフリカ地域研究・映像人類学／京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程）

各イベントの詳細は随時ウェブサイトで公開します

■ 開催概要

展覧会名称：im/pulse: 脈動する映像

企画：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

主催：京都市立芸術大学

助成：公益財団法人 野村財団、公益財団法人 吉野石膏美術振興財団

協力：京都芸術センター、空間現代、『響・HIBIKI』製作委員会、樋口造園株式会社、ワタリウム美術館

会場：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA（住所／京都市中京区押油小路町 238-1）

会期：2018年6月2日（土）-7月8日（日）11:00-19:00（月曜休館）

入場：無料

お問い合わせ：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA Tel: 075-253-1509 E-mail: gallery@kcua.ac.jp

公式サイト：http://gallery.kcua.ac.jp

京都市立芸術大学 @KCUA
Kyoto City University of Arts - founded in 1989 - KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY

■ プレス向け画像貸出について

本プレスリリースに掲載している画像はメディア掲載時にご利用いただけます。

ご希望の方は広報担当（西谷）までお問い合わせください。